

不定流ニ就テ

計 議 土木學會誌 第二卷第六號 大正五年十二月

著者 工學博士 市瀬恭次郎

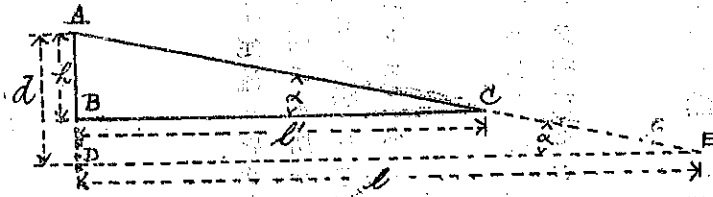
「不定流ニ就テ」ノ論說ニ對シ鶴見工學士ハ會誌第二卷第四號ニ討議ヲ寄セラレタルハ著者ノ深ク感謝スル所ナリトス而シテ其第一項ノ疑義ハ次ノ説明ニヨリテ了解アラシキト望ム Uniform Flowノ場合ニ於テ二個ノ斷面間ノ落差ヲ h (圖中 AB ニテ示ス)トシ其水平距離ヲ l (圖中 BC ニテ示ス)トスレハ

$$s = \tan \alpha = \frac{h}{l}$$

次ニ AB ヲ延伸シテ AD ヲ動水平平均深 d ニ均シクシ D ヲ通シテ水平線 DE ヲ劃シ AC ノ延伸線ニ E ニテ交又セシメ DE ヲ l ニテ示セハ

$$s = \tan \alpha = \frac{d}{l}$$

トナル然ルニ著者ノ注意ノ足ラスシテ論說ノ緒言ト第一章トノ間ニ連絡ヲ缺キシヨリ鶴見工學士ハ蓋シ論說第一章ニ於ケル l ノ價ヲ同緒言ノ中ニ見ユル水路ノ二個ノ斷面間ノ距離則チ此圖ニ l ニテ示セルモノト混同サレタル爲メニ疑義ヲ起サレタルモノナルヘキカ而シテ



$$\frac{ds}{dt} = \frac{dd}{l}$$

ノ由來 (Derivation) ニ關シテハ會誌第二卷第四號著者ノ補論ニ就キ批評アラン
コトヲ望ム

第二項ノ質疑則チβヲ定ムヘキ公式ノ形態ハ論說ニ述ヘシカ如ク專ラ利根川
洪水實測ノ結果ニ基キ構成シタルモノニシテ尙ホ一段ノ研究ヲ進ムル爲メ北
上川ニ相當ノ設備ヲナシ本年夏期ノ洪水ヲ待テシニ今日ニ至ルマテ更ニ其襲
來ヲ見サルハ深ク遺憾トスル所ナリ幸ヒニ機會ノ到來スルマテ此問題ヲ保留
セラレンコトヲ希望ス而シテ彼ノ第三項ノ問題ニ對シテモ同時ニ多少ノ材料
ヲ提供シ得ヘシト存ス(完)